



## 落合総合センター

**設計主旨**  
 本施設は、市役所の支所・保健センター・公民館・図書館といった市民サービス機能を統合したものである。真庭市は古くから木材の集散地であり、市内に約30ヶ所もの製材所がある。現在は「バイオマスタウン真庭」と称し、木質資源を活用した地域振興が軌道に乗りつつある。落合地域センターはそんな杜の都でなければできない環境共生施設を目指した。約4,000㎡の床面積のうち3,000㎡近くを燃えしる設計による木造準耐火構造とし、木構造の最大化を図った。  
 メインファサードは、210mm角の一般製材を4本束ねた列柱によって大庇を支える。深い陰影のある構成とし、地域交流の拠点に相応しい親しみやすい表情を目指した。内部空間では、一般製材とエンジニアリングウッドをその特性を生かすよう組み合わせた力強い架構と繊細なルーバーによる木に包まれる空間となっている。建物中央にハイサイドライトを設け、柔らかな自然光が注ぐ2層吹き抜けの中央ロビーが各交流機能を優しく繋ぎとめている。  
 また、市内で生産される木チップとベレットのボイラーを熱源とした地産地消の「オール・バイオマス熱源」の空調システムを採用し、CO2排出量を大幅に削減すると共に、燃焼性の高いベレットとリーズナブルなチップを併用することでランニングコストの削減を意図した。市内では、バイオマス発電所も稼働を始め、本施設への送電が予定されており、実現するとまさにZEB(ゼロエミッションビルディング)が実現する。

